

原文中「」に入れた語は著者の補ぐるもの、譯

れど邦語としては餘りに目立つから、訳葉の續を
工合から取り除けて見たものである。

文中のは解し易からしめん爲に余の補ぐるもの、
（）に入れたのは文法上の時、人稱語尾等の譯な

譯文の體裁を整ぐるゝとは讀者の興味に一任する。さて裏面記載の譬喻談に相當するものは、Caxton の The Fables of Aesop 及 L'Estrange 回名の書にも出でぬないやうであるが、前記 Landsberger の書中には收められてあり、又 Ernest Rhys の Aesop's Fables にも、James のイソップ譬喻談から集めた部中に收められてある所の The porker and the sheep (回書第六八頁參看) 餅や豚と羊の話の一節であるゝとは容易に看取せられる。其の話は牧場の羊の群中に一足の豚が迷ひ込んだのを、羊飼が捕へた。豚は一生懸命大聲を立てゝ叫び、もがいたが、これを見た羊が、羊飼はいつも自分等をそんな風にして捕くるが、自分等は決して鳴いたり叫んだりはしないといふて豚をたしなめた。豚は羊に、自分とお前等とは事情が違ふ、お前を引いて行くのはたゞ毛を取る爲だが自分をつけ行ぐのは肉を取る爲なのだと云ふのである。念の爲に Rhys の書に記されて居る處を引くと

THE PORKER AND THE SHEEP

A young Porker took up his quarters in a fold of Sheep. One day the shephered laid hold on him, when he squeaked and struggled with all his might and main. The Sheep reproached him for crying out, and said, "The master often lays hold of us, and we do not cry." "Yes," replied he, "but our case is not the same; for he catches you for the sake of your wool, but me for my fry."